

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	競艇場（職員）	販売量の動き	・他の競艇場や電話投票の売上が、11月初旬の記念レースの際に例年より増加した。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・テナントの売上状況はまちまちだが、夏から秋にかけてほぼ全面的に減少だったのに比べると少し持ち直し、前年比ではほぼ同水準となっていることから、現在のところ下げ止まったが、少し上向きの傾向にある。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	単価の動き	・前年よりも、高額商品の売れる比重が高くなっている。
		その他小売（営業担当）	お客様の様子	・海外旅行から国内旅行へシフトしたため、土産物である当社製品の売上が増えた。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・前年を上回る、宮島観光への来客数による販売量の増加と、まだまだ続くガソリンの高値などで、国内の観光需要が増えている。
		テーマパーク（財務担当）	来客数の動き	・土・日・祝日を中心に、来客数等好調である。
	変わらない	商店街（代表者）	それ以外	・新しいデパートのオープンに伴い、通行量は2けたの伸びをみせているが、今月に入って、物販関係3店の閉店が決まった。物販店への好影響はないようだ。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	来客数の動き	・連休があったにもかかわらず、観光客が増えなかった。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・単価の高い重衣料で新しいトレンドがなく、買い控えが見られる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・先月同様、来客数が前年比104～105%で推移している。販売点数についても、103～104%で推移しており、変わらない状況が続いている。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・新聞にチラシが入った日でも、開店直後から来る客が減った。普通なら朝は11時前後にピークを迎えるが、ピークのこない日もある。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3か月前と比較すると、来客数の前年比は、ほとんど変化がない。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・土日の来客数は平日の3倍くらいになるが、平日の来客数が増加しない。また、毎週火曜日に食品の特売を実施しているが、午前中は少し客が増えるものの、食品のみを買って帰る客が多い。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・自分の担当しているDVD関係の商品は、ハイビジョン放送をブルーレイディスクレコーダーで録画できるという追い風もあり、前年以上の売上があった。テレビも前年比をクリアしているの、売場に立っていて、あまり景気が悪いという実感はなかった。
		その他専門店〔カメラ〕（店長）	来客数の動き	・来客数が前年並みに下げ止まってきた。ただ上昇までの感じはない。
一般レストラン（経営者）		単価の動き	・原料代等が下がってきた実感はないが、来客数は安定している。また冬のライトアップが始まり、人出も例年通りあるようで、夜の来客数も変化はない。	
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・ボーナスの支給に伴い来客数は伸びつつあるが、客単価等あまり変動はなく、客の慎重さがうかがえる。		
都市型ホテル（総務担当）	販売量の動き	・紅葉のシーズンであることに加えて、台湾からのチャーター便が来客数の確保に寄与した。		
タクシー運転手	単価の動き	・例年より少し悪いが、月末からは12月にかけて営業のあいさつ回りなどで徐々に増えてきてはいる。		
タクシー運転手	お客様の様子	・今月は前半から非常に動きが良かった。他県からの観光客の流入により、各所で観光客が増加している。人気劇団のイベントが2日間行われ、その効果が現れた。		
通信会社（企画担当）	お客様の様子	・世間で言われているほど、客の様子からは購買を控えようとする意志の強さが見て取れない。不景気に慣れてしまっているのかも知れない。		
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・国内景気の低迷と、精神的なものから、消費への意欲が大きく落ち込んでいる。		

	テーマパーク (広報担当)	来客数の動き	・来客数はほぼ横ばいだが、中身は変わってきて、近場の客が増えてきており、旅行が「安・近・短」になってきている実感がある。ただし、本当の近場客である地元の客は、大型ショッピングセンターに奪われていて、結果としては横ばいである。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・来客数減少、客単価低下、商店街の通行量減少という状態にある。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・ついに当地域の主要な商店街とその近辺にも、空き店舗・空きビルが目立ち始めた。他の商店街とは状況が少々異なると思うが、商況や商店街を取り巻く状況は悪化している。
	一般小売店[酒 店](経営者)	お客様の様子	・地場の自動車関連企業の労働時間短縮や、契約社員の減少など、厳しさが身の回りのこととして伝わってきている。このため消費意欲はかなり低調になってきて、得意先の飲食店も客入りが悪くなっている。
	一般小売店[印 章](営業担 当)	来客数の動き	・年賀状印刷受付の時期に入ったが、受付件数で前年比10%減と落ち込んでいる。また、印刷価格の問い合わせも多くあり、より安い店を探していることがうかがえる。
	一般小売店(営 業)	販売量の動き	・地方にはあまり影響のないように思えたが、金融危機などのニュースによって、消費者の財布のひもがきつくなっている。料飲店は焼肉屋の落ち込みがひどい。
	百貨店(営業担 当)	お客様の様子	・来客数も少なく、販売量も減少している。カードを使用して買物をする客が減って、1品単価も低下している。必要最低限の買物しかしない様子が見てとれる。
	百貨店(販売促 進担当)	お客様の様子	・消費の低迷に加えて、地元大手企業のリストラ等もあり、地域経済は非常に冷え込んでいる。店頭においても、宝飾品や婦人服の高級ゾーンが、大きなマイナスとなっている。
	百貨店(電算担 当)	販売量の動き	・今月は、売上が前年比で8.5%減となった。過去10年間でこんなに悪いのは初めてで、雑貨、衣料品、服飾、ほとんどの課がマイナスになっている。消費に意欲が感じられない。
	百貨店(売場担 当)	お客様の様子	・一部のブランドコーナーを除いて、低単価な身の回り品から高額な化粧品・衣料など、全体的に売上ダウンが大きい。高めの気温のせいだけでなく、地域全体の消費が冷え込んでいる。
	百貨店(購買担 当)	お客様の様子	・今月上旬よりお歳暮ギフトセンターがオープンしており、早く申し込まれたものへの割引・安売りというセールスポイントにより、来客数は前年並みで推移しているが、送り先の削減などにより、件数が前年よりも減少している。また、今月は七五三があったが、写真館に行って貸し衣装で簡単に撮るといような傾向にあるようで、子供服のフォーマル関係の動きがほとんどなかった。
	百貨店(販売担 当)	来客数の動き	・来客数は前年並みながら、売上は前年比5ポイントのマイナスである。購買目的の客が少なく、買い方が非常にシビアである。
	スーパー(店 長)	販売量の動き	・全体的に売上は落ちているが、チラシ投入商品の動きだけが非常に良い。特に調味料など、使用頻度の高い食材の特価品の販売数は多くなっている。
	スーパー(経営 企画)	販売量の動き	・10月21日現在の既存店の販売量が、前年比96.05%である。来客数は97.59%である。
	コンビニ(エリ ア担当)	販売量の動き	・売上は値上げの寄与で、前年比をやや上回っているが、販売量は若干落ち気味である。
コンビニ(エリ ア担当)	単価の動き	・最近では低単価の物しか売れていない。ペット飲料は月間の特売品を中心に売れ、弁当は480円以上の商品の売上が大幅に減少している。雑貨も大幅に減少している。	
コンビニ(エリ ア担当)	販売量の動き	・タスポ効果でタバコの売上は伸びているが、それ以外の商品は前年割れが続いている。タバコの効果も導入当時に比べると徐々に落ちてきていて、全体的な売上については減少傾向にある。	
衣料品専門店 (地域ブロック 長)	単価の動き	・低価格商品の動きしか見受けられず、高い商品が売れていない。したがって、客単価も低下している。	

	衣料品専門店 (販売促進担 当)	来客数の動き	・今月は寒くなったこともあり、常連客の来店は多い。しかし、一見の客の来店が少なく、来客数は下がっているため、売上自体はやや減少している。全体的にメンズの動きが鈍く、レディースの伸びの方が目立つ。
	家電量販店(店 長)	単価の動き	・薄型テレビ・DVD等は数量的にはますます売れているが、販売単価の低下により、売上の確保が難しい状況である。
	乗用車販売店 (統括)	単価の動き	・全般的に引合い自体が少なくなっている。引き合いがあっても、単価の低いものに移行してきている。
	乗用車販売店 (サービス担 当)	来客数の動き	・店頭への来客数が少なくなり、新車を買うか買わないか、その反応が鈍くなっている。またこのご時世に、新車を買うと周囲からどんな目で見られるかという配慮から、中古車にする客も多い。
	自動車備品販売 店(経営者)	来客数の動き	・来客数の減少は続いており、今月は特に良くない。平日は前年実績を確保できるが、土日祝日の落ち込みが大きい。また商品では、高額商品であるナビゲーションが、数量、売上共に、今までにない落ち込み方である。
	自動車備品販売 店(店長)	単価の動き	・消耗品でも安い物しか買わない。ぜいたく品である大型商品は全く売れない。
	スナック(経営 者)	お客様の様子	・客がとにかくお金を使わない。忘年会の話も一切出さず、普通だったら「忘年会をいついつにするから、その後頼むぞ」というような話があるのに、一切聞こえてこないなど、客の様子は大変悪くなっている。会社で忘年会をせず、グループや家庭でしているようである。
	その他飲食[ハ ンバーガー] (経営者)	来客数の動き	・客単価のアップで、売上は維持できているが、来客数が大幅に減少している店舗が増えている。
	都市型ホテル (従業員)	来客数の動き	・宿泊部門は前年低調であった一般団体が増加したことにより、前年並みであるが、レストランは高単価の店舗を中心に、前年に及ばない。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・レストランでは夜の一般の客が減少しており、宿泊客が夕食で利用する程度である。宿泊の人数は、前年より微増であるが、客単価を下げざるを得ないため、売上は減少している。
	旅行代理店(営 業担当)	お客様の様子	・現在の国の施策では、景気回復はおぼつかない現状であり、アメリカの金融業界も破綻に近い状況のなか、客は旅行どころではない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・例年だと、この時期から早めの忘年会が始まっているはずだが、その動きが出ていない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・11月は3連休が2回あり、例年だとその前日は確実に客が増えたのだが、今月はそれもなく、先が思いやられる。また、10月の売上も5%減となった。
	通信会社(営業 担当)	販売量の動き	・訪問先企業において経費削減・コスト見直し等の話が多くなっている。
	通信会社(総務 担当)	お客様の様子	・高品質の新メニューを導入したが、料金が若干高いこともあり、新規契約獲得の増加に結び付いていない。
	ゴルフ場(営業 担当)	お客様の様子	・外国、特に韓国からの客の動きが悪くなった。ウオン安円高で、日本への旅行がしにくくなっている。
	美容室(経営 者)	来客数の動き	・景気後退、景気後退と言われる社会的な風潮のせいかわからないが、客の来店周期が徐々に伸びてきて、景気の冷え込みを感じさせる。
	設計事務所(経 営者)	競争相手の様子	・受注の減少が加速している。同業者に廃業、もしくは破産整理が増え、現状維持が精一杯である。
悪く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・来客数が少ないのだが、少ないなかの客の話を聞いても、不景気感が強い。
	商店街(代表 者)	単価の動き	・客の消費動向が、生活防衛に向かっているというのがありありとわかる。より付加価値の高い物を、より安くという傾向が、ますます鮮明に出てきている。オーバーストア・デフレ・少子化の三重苦で、子供服・衣料については、ますますデフレ傾向が強まっている。
	商店街(代表 者)	お客様の様子	・今までも景気はひどく悪く感じていたが、この世界的な株の乱高下等による先行き不安のために、客の買い控えがなおさら強くなってきている。

商店街（代表者）	お客様の様子	・客同志で話すことが、不景気な話ばかりである。実際に客単価が低下しているし、食事以外にはお金を使わない。
一般小売店 〔靴〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少していることに加えて、販売量の動き・単価の低さ・客の不景気な様子、すべてが悪くなっている。
一般小売店 〔茶〕（経営者）	それ以外	・中小企業団体への加盟企業で、数か月まで羽振りがよかったコンピュータ関連企業や、中国に鋼材を輸出している企業などの倒産が相次いでいる。地域として一気に悪くなっている。
一般小売店（経営者）	来客数の動き	・世間の不況のニュース等で、消費マインドが相当低下している。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・客の購買力が弱くなってきているため、売上高が計画値を下回っている。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・好調であったミセス衣料やヤング婦人靴は、11月第2週の末から落ち込んで、結局前年比80%台で推移し、好調な商品群がなくなった。家族優待会などで紳士衣料とミセス服が若干盛り返したが、後半仕掛けのない平日は前比80%後半で推移した。今月は3連休が2度あったにもかかわらず、店全体でも前比90%前半の売上となった。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・株価下落の影響からか、富裕層に良く出る美術品が売れなかった。
スーパー（店長）	販売量の動き	・単価が安い商品に消費者の興味が移行しつつある。
スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数の減少傾向は続いており、当店来客数の前年比86%、館全体でも前年比92%と苦戦を強いられている。この部分での回復の兆しがみられない現状では、景気は後退していると言わざるを得ない。
スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は変わらないし、買上点数も全く変わらないが、客単価が低下している。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数は前年並みか、多めで推移しているものの、客単価が上がらない。メモを片手に買物している姿が多く見られ、必要最小限の買物しかしていない。
スーパー（財務担当）	販売量の動き	・値上げにより単価が上昇したため、買上点数と来客数が減少するという状況が続いている。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・生活防衛型の客が増えている。弁当などの主食系商品は前年割れが続いており、弁当をコンビニで買うより、家から持って来るなど、客の行動が変わりつつある。
衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・残り少ない商店街の同業者が、お店を奥さんにまかせてパート勤めを始めた。
家電量販店（店長）	競争相手の様子	・同業他社・競合店の状況をみると、前年比で大幅に数字を落としている。パイ自体は多くなっているわけではなく、市場としては非常に冷え込んでいる。
乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・販売実績、来客数共に、前年に比べ激減している。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・販売台数で前年比81%と大変厳しい状況となっている。特に、2,000cc以上の車両の落ち込みがひどい。
乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・新商品を投入したにもかかわらず、新規来客数が極端に少ない。
その他専門店 〔時計〕（経営者）	単価の動き	・全体的に高額品が売れなくなっている。必要な物以外は売れない。
その他専門店 〔布地〕（経営者）	来客数の動き	・まだ冬はこれからなのに、どこの店でも30～50%引きの売出しが始まった。当店も売上、来客数が伸びないので、今月末からバーゲンを始める。
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・ファミリーによる来客数の減少が続いている。忘年会のシーズンだが、前年より大幅な集客減になっている。客単価も低い。
観光型ホテル（経理総務担当）	来客数の動き	・12月の忘年会の予約が極端に悪い。中小企業はともかく、業績好調とのことで期待していた大企業までもが手控えている。年末商品のお節料理の売行きも鈍い。

	美容室（経営者）	競争相手の様子	・毎年11月は売上がだいぶ下がるのだが、今年の11月はどこの店に聞いても最悪の様子である。当店もこんなに売上が減少したのは初めてなので、ちょっとびっくりしている。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客との会話から、仕事の状況とか、残業がなくなって収入が減っているなどの話を、良く耳にする。	
	設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・倒産、廃業など、建設業者からは後ろ向きの言葉しか聞こえてこない。不動産価格が暴落したが、買い手がなく売却は進まない。新規工事がほとんどなく、仕事をしても工事代金の回収が心配なありさまである。	
	設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・官庁からの発注件数が減少し、民間は景気の見通し悪く設備投資を控えている状況で、どの同業者も仕事が少ない。	
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・建築という大きな投資に対して、客はかなり慎重になっている。景気の先行きが見えるまで、控えるといった様子である。	
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・3か月前より50%減と、住宅展示場への来場者数が激減している。	
	住宅販売会社（経理担当）	お客様の様子	・自動車業界が景気低迷に伴い、人材派遣社員等の大幅なリストラを実施している。客のなかには、主婦が人材派遣で勤務している家族も多いため、住宅業界においても、その影響を受けている。	
企業動向関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	-	-	-
	変わらない	輸送業（運送担当）	取引先の様子	・相変わらずの原油高騰のあおりを受け、運送業者の発注量が伸び悩んでいる。
	やや悪く なっている	食料品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上はあるのだが、利益面をみると今年は例年の半減以下になっている。売上は上がるが、利益が伸びないという状況である。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量の減少が顕著になってきた。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・これまで高水準であった受注残の推移が下降に転じてきた。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・全商品について、値上げを実施した影響で、売上が大幅に減少した。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関連において、特に米国の新車販売台数の落ち込みに歯止めが掛からないために、受注計画の下方修正が頻繁に行われている。携帯関連も秋モデルを投入したものの、今までは年末商戦に向けて受注が増えたのに、今年はそれがなくなっている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要な取引先である自動車産業が、今月は減産につぐ減産になっており、非常に景気が悪くなっている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量・受注価格共に引き続き横ばいの状況であるが、原材料価格の高止まりや諸経費の負担増など、採算的には厳しい状況が続いている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・建設関連は、もうこれ以上落ちようがない状態が続いているが、最近は沈滞ムードがさらにひどくなっている。
		通信業（営業企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・上半期の法人向け通信サービス販売状況は、数的にはそこそこ出ているものの、回線容量など契約内容の変更に関わるものが多く、新規受注は芳しくない。利用の効率性とコストが見合うサービスを探る動きが強くなっており、収益面の伸びはあまり期待できない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・ガソリン代等は下がったものの、原材料費がまだ上がっている。例えば、ケーキ屋の小麦粉・バター・チーズ、建材屋のサッシ等の建具類、こういった物がずっと上がっていて、原価が高止まりしている。
	金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・主要受注先では、景気低迷から北米向けの輸出減少が顕著となり、これまで堅調だったアジア・欧州向け輸出も頭打ちとなり、全体として受注量は急速に減少している。	
不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数、成約件数共に減少している。		

		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・自動車メーカーの減産、地場大手スーパーが予定していた用地買収の不成立など、良いニュースが全くない。
悪くなっている		繊維工業（統括担当）	受注量や販売量の動き	・とにかく急激に景気が悪くなっており、特に物が動いていない。
		木材木製品製造業（経理担当）	それ以外	・元々悪かったが、最近の経済動向の影響もあって住宅市場が冷え込み、一気に悪くなっている。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関連・エレクトロニクス関連の受注が、ここに来て大幅に落ち込んでいる。受注が戻る見通しも不透明である。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・米国発の金融危機による世界同時不況の影響により、これまでフル生産を持続してきた粗鋼生産量が10月以降減少に転じて、なお減産傾向にある。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・取引先の生産台数が減少している。
		輸送業（統括）	取引先の様子	・顧客からの値引き要請が多数あり、収入減となっている。
		通信業（部門長）	それ以外	・サブプライムローン問題による金融不安で、株価が下落・低迷し、失業者も大量に増えた。個人消費も投資信託等の下落の影響が大きく、販売不振から市場全体が冷え込んでいる。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・全ての業種において、一気に景気が落ち込んだ感がある。特に、製造業関係の業績の悪化が目立つ。
		その他サービス業〔建築物清掃業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が明らかに減少している。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない			
	やや悪くなっている	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・自動車メーカーの減産により、地域企業の求人数が明らかに減少している。
		求人情報誌製作会社（担当者）	採用者数の動き	・来年の職員採用のための予算の見直しについて、厳しい見解の企業が増えてきた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・地域経済をけん引してきた大手企業で時間外が減少するなど、不況ムードに拍車がかかっている。百貨店を含む大型店も、少々寒くなっても衣料、特に男性衣料が売れないと悲鳴をあげており、当社も広告の売上高が大きく落ち込み始めている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人特に減少幅が大きい産業がサービス業であり、労働者派遣事業者からの新規求人減少が顕著なことが、要因としてあげられる。派遣から自社社員への切り替え、景気の悪化により労働力確保が不要となったこと等により、企業の派遣離れが進んでいる。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・景気の影響を受けた企業の人員見直しの件数、解雇者数が、前年比で増加している。また、急激な受注の減少から、休業を行う場合の、雇用調整助成金の申請や相談も始まった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が徐々に減少しており、ここ数か月、建設業・運輸業・情報通信業の大幅な減少が目立つ。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・地場の大手企業に新規求人開拓のために訪問したが、逆に自社でのリストラ候補社員の再就職を依頼された。
悪くなっている	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・かつてないほど契約終了、契約解除が増加している。	
	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・主に自動車関連業界や弱電業界の取引先において、生産調整による派遣契約終了の話が相次いでいる。	
	求人情報誌製作会社（支社長）	採用者数の動き	・自社の中途採用枠が減少した。	
	求人情報誌製作会社（支店長）	周辺企業の様子	・派遣社員の大量解約が周辺で数多く聞かれる。好調であった業界にも、キャンセルなどの話が聞かれるようになった。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・求人状況をみると、とにかく非常に悪い。	

	職業安定所（雇用開発担当）	周辺企業の様子	・半導体製造業・自動車部品製造業の事業所から、休業や派遣社員の整理等、雇用調整に関する相談を受けるようになった。
	民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・新規登録者数が、引き続き増加傾向にあり、例年以上の伸びを示している一方で、新規求人数が伸び悩んでいる。また、しばらく採用難の時代が続いたが、現在では公募でも十分採用できる状況に変化している。従来であれば間違いなく内定を得られるスキルを保有する人材に対しても、「時期が悪い」ということで書類選考さえパスできない状態である。